

自分に必要な情報を集め、まとめ方や伝え方を工夫し、 わかりやすく表現していく子ども

～ 新聞記事の積極的な活用を通して ～

長野県上水内郡小川村立小川小学校 岡澤 秀樹

1. はじめに

小川小学校は、全校児童140名、1学年1クラスの小規模校である。「心もからだもすこやかな子ども」の育成を学校教育目標に掲げ、目標具現のための重点として「遊びの広がり・深まりと体力づくり」「豊かな学習経験に基づく表現力の向上」に力を注いでいる。

一昨年度よりNIEの実践校として活動が続けてきた本校では、主に「総合的な学習の時間」の活動として、4・5・6年の3学年で新聞を活用した授業に取り組んできた。日頃、テレビ欄ぐらいしか読まない児童に、いかにして新聞とかかわらせていくか試行錯誤をしてきた。初めのうちは活字を追うことにはかなりの抵抗を示した子どもたちであったが、授業の導入に新聞を取り入れたり、新聞コーナーの設置をしたりすることで、自分から新聞に向かう児童が増えてきた。

子どもたちは、取材活動や様々な資料をもとに調べ、自分なりにまとめることはできるのであるが、資料の文章をそのまま書き写したり、意味のわからないまま発表してしまったりすることもある。その結果、聞いている側の児童も意味がわからず、中途半端な学習に終わってしまったりすることもあった。そこで、昨年度は「総合的な学習の時間」の他に、「国語科」の授業にも新聞の活用を取り入れ、子どもたちの学習活動の源となる基本的な学力（要旨を把握しながら読む力・効果的に表現する力）の向上を目指していきたいと考え、実践してきた。

2. 新聞活用の環境設定

(1) 新聞コーナーの設置

- ・毎朝、6年生の児童が配達された5紙を新聞コーナーに展示し、児童がいつでも新聞を読むことができる環境を設定した。
- ・自分のテーマに関係する記事があったら、各学年ごとに決められた色鉛筆で記事を囲い、後日切り取ることができるようにした。

(2) バックナンバーの保管

- ・新聞コーナーのテーブル上には、当日の新聞を置き、バックナンバーについては日付順にテーブル下に積み重ねて、いつでも取り出せるようにした。

3. 実践の概要

(1) 新聞掲示の活動（6年 始業前）

- ・毎朝、配達される新聞5紙を、係児童が新聞コーナーに展示した。

- (2) 新聞日記（5年・6年 毎日の生活記録）
 - ・家庭や学校で新聞を読み、毎日の生活記録帳に記事の内容や感想を書く、友達の前で発表したり、学級通信に載せたりした。
- (3) 新聞作り（4・5・6年 国語、社会、特別活動）
 - ・調べたことや学習したことをもとに新聞を作り展示した。
- (4) 新聞から情報を集めて（4・5・6年 総合的な学習の時間）
 - ・4年 福祉・環境 ※ 総合的な学習 実践事例1 参照
 - ・5年 環境
 - ・6年 健康 ※ 総合的な学習 実践事例2 参照
- (5) 教科学習での活用（5年 国語）
 - ※教科学習での実践 参照

4. 教科学習での実践

- (1) 単元名 「読む人のことを考えて、分かりやすく工夫して書こう」 5年 国語

①単元設定の理由

5年生の児童は、新聞記事の内容を書いたり、「米作り新聞」を作成して発表したりする学習を通して、他者に分かりやすい表現を意識する、文字を強調する、色をつけるなどの工夫を経験してきている。しかし、集めてきた資料をそのまま書き写したり、発表したりするため、受け手から「難しくてよくわからない」といった感想をもらうことが多い。また、発表者自身もあいまいな理解のまま臨むので、質問に答えられないことがある。

本教材は、資料から自分自身で難しいと感じた語句を、分かりやすく書き直すための方法を扱う。今まで社会科や「総合的な学習の時間」のまとめの場面で、「分かりやすく伝えたい」と願っている児童にとっては、そのための具体的な方策を学べる機会となる。また、これから繰り返し取り組んでいく「情報を集め、まとめ、発信する」という学習の中で、資料の活用方法に大いに役立つ力を養うことができる。

本教材を通して、子どもたちには以下の姿が期待できる。

- ・自分が難しいと感じる新聞記事を、辞典等を使って詳しく調べることで、自分自身が伝えたいことを明確にして、まとめや発表を行うことができる。
- ・伝えたい相手を決め、「易しい言葉にする」「具体例を示す」などの方法を使って、新聞記事を書き直し吟味することで、読み手意識に立ち、「分かりやすさ」を考えた効果的な表現を工夫することができる。
- ・分かりやすく書き直した文章を、グループで確かめ合ったり、全体で紹介し合ったりすることで、自分自身の表現効果を確認し、より工夫できる点を見つけだすことができる。

以上により、必要な情報を積極的に集め、わかりやすいまとめ方や伝え方を工夫していくことができることを願い、実践した。

②単元の目標

- ・難しい内容をやさしく書き換える方法を知り、新聞の記事や広報誌などを分かりやすく書き換えることができる。
- ・やさしい言葉にしたり具体例を示したりして、分かりやすくするための工夫をすることができる。
- ・難しい内容をわかりやすく書き換えるために、必要な語句について辞書を利用して調べることができる。

③指導上の留意点

- ・相手意識をしっかりともてるよう、誰に、何を伝えるのかをはっきりさせる。
- ・今までの学習から漢字辞典の使い方には個人差がある。「漢字辞典の使い方」を掲示し、子どもが参考にできるようにする。

(2) 展開の概要

時	学習活動	教師の支援・●評価
1	①わかりやすく伝えたいという願いを確認し、教材文の中から、読む人のことを考えて難しい言葉を分かりやすく書き直す工夫を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習から「資料を丸写しにしたり発表したりする」という問題点に気づかせ、わかりやすく表現することへの意欲をもたせる。 ・今まで難しい言葉にであったとき、辞書を引いたり、人に尋ねたりしてきたことを思い出させる。 ・難しい語句ばかりだと読む気がおこらないなど、「読み手」としての思いにも触れさせる。 ・教材文をもとに、「調べた言葉の意味を（注）の形で入れる」「やさしい言葉に置き換える」「身近で分かりやすい具体例を示す」の3つの方法を押さえ、書き直しをさせる。 ・書いたものを発表したり、友達と読み合ったりして、さらに分かりやすく書くための工夫に気づかせる。 ●わかりやすく表現できなかったのは、資料を丸写ししていたためだと気づき、改善への意欲をもてる。 ●3つの方法を取り入れ、文を書き直すことができたか。書き直したことで、分かりやすい文になったか。
2・3	②教材文で学習したことを使って書き直すための資料を集め、書き直す文を選び出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習で集めている「環境問題」についての新聞記事やインターネットの資料のうち、意味がわからない、難しい言葉が多くて読みづらいものがないかを考え選ばせる。 ・資料を、誰に向けて、何のために書き直すのかをはっきりさせて選ばせる。 ・書き直したい資料ごとにグループを作り、調べる文章を分担させることで、学習の後半で、グループ内で書き直したものの文意が通じるかなどを確かめ合えるようにする。 ・一つの段落や、大切なところにポイントを絞り、書き直す文を選ばせる。

<p>4・5</p> <p>6</p> <p>本時</p>	<p>③難しい言葉の読み方や、意味を調べる。</p> <p>④調べたことを使い、文の中で分かりやすく書き直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習で集めている「環境問題」についての新聞記事やインターネットの資料のうち、意味がわからない、難しい言葉が多くて読みづらいものがないかを考え選ばせる。 ・資料を、誰に向けて、何のために書き直すのかをはっきりさせて選ばせる。 ・書き直したい資料ごとにグループを作り、調べる文章を分担させることで、学習の後半で、グループ内で書き直したものの文意が通じるかなどを確かめ合えるようにする。 ・一つの段落や、大切なところにポイントを絞り、書き直す文を選ばせる。 ・難しい言葉や意味のわからない言葉に線を引かせる。 ・学習カードに難しい言葉の読み方、その意味を書き込ませる。 ・たくさんの意味があり、どれを使ってよいか迷っている場合、言葉を挟む前後の関係に注目させる。熟語については、漢字の組み合わせを考えさせ、意味を類推させる。 ●国語辞典や漢字辞典を使って、難しい言葉を調べられたか。
<p>7</p>	<p>⑤前時に書いた文章をグループでまとめ、全体の前で発表し、どのような方法で調べ、文を書き直したのかを交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に課題として残った部分を修正し、清書させる。 ・誰に向けて、何の資料を、どういう意図で書き直したのかをはっきりさせる。 ・難しい言葉をどうやって調べたのか、わかりやすくするためのどう書き換えたかを発表させる。 ・満足できる学習となったかをふり返らせる。 ・友達の発表を聞いて、感心したことや、次に自分が使えるようなことを伝え合う。 ・学習を通して向上したところを本人に伝える。

(3) 本時の活動

①主眼

選んだ資料の難しい言葉の意味を調べた子どもたちが、文を分かりやすくする場面で、3つの工夫を参考にして書き直し、グループ内で確かめ合うことを通して、下級生にわかるような文章にすることができる。

②指導上の留意点

資料を分担したグループごとに座らせ、後半の学習でスムーズに話し合いに移れるようにしておく。

③展開

学習活動	教師の支援・●評価
<p>1. 本時の学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた言葉を使って、分を分かりやすく書き直すことを伝える。 ・調べた言葉を使って、文を分かりやすく書き直すことを伝える。 ・「難しい言葉をわかりやすく書き直すためにはどんな方法があ

<p>2. 難しい言葉の部分に3つの方法のどれを用いるか考える。</p> <p>3. 調べた言葉を使い、文の中でわかりやすく書き直す。</p> <p>4. 書き直した文章が、分かりやすいものとなったか、グループの中で確かめ合う。</p> <p>5. 友達の感想カードをみて文を修正する。</p> <p>6. 今日の学習を振り返る。</p>	<p>るでしょう。」と問い、以前の学習を思い出させ発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 誰に、何を、どのような方法を使って伝えるのか学習カードに書かせる。 ● <u>本時の目標がもてたかを学習カードからみる。</u> • 難しい言葉の下に数字をつけさせ、書き直しの見通しをもたせる。 • 記号が書けずにいる児童がいる場合、一カ所に集め、以前難しい言葉を書き直したときの例文を参考に、を選ばせる。 • 学習カードに直した文を書かせる • 難しい言葉の部分に、ただ調べた意味をあてはめている児童には、声に出して読ませ、「分かりやすくなったか」「文としておかしくないか」を問いかける。 • 書き直しが終わってしまった児童には、難しい言葉を分かりやすくするためにどのようにしたかを書かせる。その後、新しい資料を書き直しさせる。 • 易しい言葉を使ったり、具体例を示したりして、分かりやすい文章を書くことができたかを学習カードから見る。 • 誰に向けて、何のために書き直した文章か再度確認させる。 • 一人一人の文について、みんなで声に出して読むことで「わかりやすくなったか」を確かめ合い、「よい」「もう一工夫」を評価させる。 • 「よい」にならない場合は、その理由を伝えさせる。 • 「もう一工夫」と評価された部分を書き直しさせる。 • 直すところがない児童には、新しい資料を書き直しさせる。 ● <u>3の学習活動の評価でCだった児童を見て回り、わかりやすく書く方法がわかったかを活動の様子でみる。</u>・方法がわからない児童には、方法を教える。 ● <u>満足度を～で記入させ、その理由を書かせる。</u> • 今日の学習のよかったところを伝える。
---	--

(4) 授業後の反省

①成果

- 資料の収集で新聞記事の切り抜きなどを行い、積極的に活用することにより、新聞に対する子どもたちの意識が高まった。その結果、日常のニュース記事にも目を向けられるようになってきた。
- 子どもたちが自分から辞書を引くようになったこと。「辞書を引く」という作業を面倒くさがらず、友達と争って難しい言葉を引くようになってきたことは、今後の学習にとっても役立つと思う。今まで、何でも担任に聞いてきた子どもが、自分の力で調べようとする。また、担任の言ったことが本当かどうかを辞書で確かめることさえある。問題を解決していくための手段として、辞書が位置づいてき

たことをとてもうれしく思う。

②課題として残されたこと

- ・一般紙の記事は、小学生の子どもにとって大変難解であることも再認識された。辞書で意味を調べることに多くの時間がとられてしまった。限られた学習時間の中で、新聞記事をどう効果的に扱っていくのかも今後の課題である。
- ・課題設定の甘さ、教材研究の不足など、反省することも多い。今後の学習にいかしたい。

5. 総合的な学習の時間での実践について

(1) 実践事例1 4年生(福祉・環境)

①学習方法

4年生は、福祉・環境をテーマとして、一人一人が具体的課題を決め、新聞で調べる活動を行った。自分の課題に関係する記事を切り抜き、B4の紙に貼って書かれている内容とそれに対する感想をまとめ、個別の場所に重ねて貼り付けていく実践をした。

②まとめたもの(写真)



千曲市高齢者スポーツ大会
で競技を楽しむお年寄り



分かちあふ

千曲市では、14日に「高齢者スポーツ大会」が開かれた。千曲市の60歳以上のお年寄り約300人もが参加した。じゃんけん、風船台をけしたり、うちわであおいでする「キックリレー」などもあった。

感想

千曲市では、お年寄りのために、いろいろなイベントをやっている。お年寄りも大切にしていくことがよく分かった。開会式では、「健康で明るい地域社会の実現を目指し、親ほくと友愛をモットーに米煮いっはおいでする」という言葉が、とてもいいと思った。

第一回千曲市高齢者スポーツ大会は十四日、磯部の戸倉体育館で開いた。市内の六十歳以上のお年寄り約三百人が参加し、楽しみながら体を動か

千曲市のお年寄り 和やかに体動かす

第1回スポーツ大会

大会は、昨年まで二十八回開いた旧東郷市の高齢者スポーツ大会を、千曲市全域に広げて開催。開会式では八幡の柳沢勇さん（67）が「健康で明るい地域社会の実現を目指し、親ほくと友愛をモットーに精いっぱいプレーする」と選手宣誓した。

全員によるじゃんけんから、空き缶を積み上げる「高びくすくす」、風船をけつたりうちわであおいでリレーする「キックリレー」など、お年寄りでも気軽に楽しめる十二種類の競技を中心に楽しんだ。客席から仲間への声援が送られ、和やかな大会となった。

③ 児童の感想

- 新聞を読むのはとても面倒くさいし、いやだと思ったけど、切り抜きをやっているうちにだんだん楽しくなってきました。いいのが見つかったときはうれしかったです。
- 私は車椅子のことについて調べました。新聞で調べたら、階段が登れるような新しい車椅子があることがわかりました。今まで知らなかったことがわかってよかったです。

(2) 実践事例2 6年生（健康）

① 学習方法

6年生は、健康をテーマとして切り抜きを行い、自分のテーマを決めて一枚の模造紙にまとめる活動を行った。

「にがり」に脚光

豆腐固めるだけじゃない

「豆腐を作るのに必須な「にがり」。最近ではミネラル豊富な食品として注目され、健康維持や体質改善のために活用する人も増えている。【朝山智子】



百貨店やスーパー、健康食品店などで買える「にがり」

●ミネラル豊富な効用
にがりには、海水から塩を取り出す際にできる液を、昔から豆腐の凝固剤として使われてきた。天然の「にがり」は海水と同様、マグネシウムや鉄、カリウムなどのミネラルや微量元素が豊富に含まれている。「にがり」は、

●「にがり」は...
にがりには、海水から塩を取り出す際にできる液を、昔から豆腐の凝固剤として使われてきた。天然の「にがり」は海水と同様、マグネシウムや鉄、カリウムなどのミネラルや微量元素が豊富に含まれている。「にがり」は、

料理に深み、1日15〜20滴 取り過ぎると下痢に
にがりには、海水から塩を取り出す際にできる液を、昔から豆腐の凝固剤として使われてきた。天然の「にがり」は海水と同様、マグネシウムや鉄、カリウムなどのミネラルや微量元素が豊富に含まれている。「にがり」は、

ミネラルを補給 健康の増進に

ダイエット、アレルギーにも「効果」

道・熊本県立大教授 藤原明子「データもよく、(機能栄養学)は「種」種的に取らなければ、日本人が不足しがちなミネラルを補給できる。また、塩の「にがり」に、ミネラルや微量元素が豊富に含まれている。「にがり」は、

●「ミネラル」は、この10年間で、市場に参入するメーカーが増え、スーパーに並ぶようになった。産地も海外や日本近海、海洋深層水までさまざま。健康大手の「六六六」(本社・静岡県富士市)が販売する「LITTELO」は、海が汚染されていない、インドネシア・マドゥラの塩田で生産。高純度が特徴で、500gが3800円、1kgが7800円、1kg以上はさらに安く販売している。

「にがり」は、海水から塩を取り出す際にできる液を、昔から豆腐の凝固剤として使われてきた。天然の「にがり」は海水と同様、マグネシウムや鉄、カリウムなどのミネラルや微量元素が豊富に含まれている。「にがり」は、

●「にがり」は海水から塩を抽出する際にできる液体です。天然の「にがり」は海水と同様、マグネシウムや鉄、カリウムなど80種類以上のミネラルが含まれている。

江野 2:51

③児童の感想

- 私はタバコの害についての記事を調べました。思っていたよりタバコの害についての記事が少なくて大変でした。
- 私はこの新聞を作ったことが二つあります。それはクイズをのせたことと、あまり暗くない新聞記事をのせたことです。最初はなかなか明るいニュースが無くて困ったけど、後になってたくさん集まりました。
- 僕は記事を集めるのが大変でした。また、どこにどの記事を載せたらいいのかを考えるのがとても悩みました。

6. 資料

新聞コーナー



切り抜きをする児童

